

掛川 明ヶ島キャンプ場

自然の「不便さ」楽しむ

2013年の台風被害の影響で営業を休止した「明ヶ島キャンプ場」（掛川市炭焼）が3年ぶりに再開し、大型連休初日の29日、初めて来場者を迎えた。地元建設会社が「地域活性化のために」と再整備し、「真の自然を楽しめる不便さ」を売りにしている。

【古川幸泰】

3年ぶり再開

同キャンプ場は、JR掛川駅から車で約1時間の山奥にあり、携帯電話は通じない。モミシやヒノキなどの自然林に囲まれた敷地に、清流のほとりにキャンプ用「ウッドデッキサイト」を設け、コテージやドッグランなどもある。外部との連絡は、管理棟の有線電話1台だけ。外灯も最小限に抑え、月や星の光を存分に味わえる。

同キャンプ場は、Jどこから10組が訪れ、バ者14年3月に退いた。その後1年以上放置されていたが、市内の建設会社「山田」が社員、成川史司さん（36）は「川の音に包まれながら、時間を気にせずゆっくりと過ごせる。開放感があって最高です」と話した。この施設は、掛川市が1978年に建設したが、台風で大きな被害を受け、当時の経営

地元建設会社が再整備

「炭焼の杜 明ヶ島キャンプ場」に名称変更し、今月28日にリニューアルオープンした。山田珠一社長は「キャンプ好きの社員も多

く、少しでも地元之恩返しをしたかった。設備の整ったキャンプ場では味わえない、自然の音ややすらぎを感じてほしい」と語る。プロデュースしたデザイン会社の松山拓也社長は「夜はこぼれ落ちそうなくらいたくさんの星が見えます。あえてこの不便さを楽し

はじめ東京都や愛知県などから10組が訪れ、バ者14年3月に退いた。その後1年以上放置されていたが、市内の建設会社「山田」が社員、成川史司さん（36）は「川の音に包まれながら、時間を気にせずゆっくりと過ごせる。開放感があって最高です」と話した。この施設は、掛川市が1978年に建設したが、台風で大きな被害を受け、当時の経営



ウットデッキサイトにテントを広げ、楽しむ客
掛川市の「炭焼の杜 明ヶ島キャンプ場」で

（http://www.d-t-r.jp/smc/index.html）。